

みんなの願いは窓口無料 すすめる会ニュース 15-16号

2015年10月21日(水)

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

http://www.medical-post.net/fukushi/

(長野市高田中村276-8：長野県社保協内)

飯田市、子ども医療費助成対象来年度から 高校生まで拡大＝県内19市で初の実施へ

東北信 12版▲ 2015年(平成27年)9月30日 水曜日 享月

**高校生の医療費
飯田市が無料化
県内19市で初来年度から**

中学生までの医療費が無料の飯田市で、来年度から対象が高校生世代まで引き上げられる。29日の市議会本会議で、市福祉医療費給付金条例の改正案が可決、成立した。子育て支援を手厚くするため、県内の19市では初めてとなる。

条例で満15歳以下としてきた子どもの定義を「満18歳以下」に改める。市保健課によると、市内に住む16～18歳の人口は約3千人。義務教育までを限度としている現行制度で年額約2億円(手数料を含む)の給付金事業は、無料化の拡大に伴い、約3千万円増える見込みという。

18歳までの無料化拡大は県内の町村で実施例が多く、今回は近隣町村の水準に足並みをそろえる狙いもある。人口規模の違いから財政負担が大きい市部では県内で先例はないが、飯田

市では以前から拡大を求めた市民の声が相次ぎ、牧野光朗市長は3期目の選挙公約にしていた。

飯田市は今年度から障害者について18歳まで無料化を拡大しており、市は「整合性を図る意味もあった」と説明。完全拡大には「むやみに医療機関にかかるケースが増えるのでは」との懸念も出されているが、市側は「経済的な理由で受診をためらうことなく、安心して受診してもらえる利点は大きい」と話している。

(山田雄一)

朝日新聞長野版9月30日によると、飯田市議会では9月29日日本会議で飯田市福祉医療給付金条例をの改正案を可決、成立させた。この改正によって、今まで中学生までの医療費助成制度が、来年度から対象を高校生まで引き上げられることになった。医療費無料化の対象が高校生(18歳以下)まで拡大されたのは、19市では初の実施になる。

飯田市では以前から拡大を求める市民の声が相次ぎ、牧野光朗市長は3期目の選挙公約にしていた。飯田市は今年度から障害者について

18歳まで無料化を拡大しており、市は「整合性を図る意味もあった」と説明。完全拡大には「むやみに医療機関にかかるケースが増えるのでは」との懸念も出されているが、市側は「経済的な理由で受診をためらうことなく、安心して受診してもらえる利点は大きい」と話している。

以上が朝日新聞の記事の内容ですが、紹介されている飯田市の担当職員の談話「経済的理由で受診をためらう」患者(家族)さんの思いをしっかりと受け止め、もう一步踏み込んで、医療機関の窓口での支払いをなくす窓口無料制度の実現に向け、行政側の政治的決断を望みたい。

9月県議会本会議で、自民党・小池清県議 (飯田市選出)が窓口無料化を求める質問

9月県議会本会議(10月1日)で、飯田市選出の自民党の小池清県議が、「子ども医療費の窓口無料化」を求める一般質問をしました。小池議員は、子どもの貧困化が深刻な状態になっている中で、貧困対策や少子化対策の中でも優先度が高い課題として「医療費の窓口無料化」問題を散り上げ、各都道府県での実施状況、国保のペナルティー見直しに関する国の動向、現物給付化への県の見解などを質問しました。県当局からの回答は、従来の見解の範囲内での答弁でしたが、窓口無料化を求める自民党県議の質問は、大きな変化で、私たちの運動の反映でもあります。

新婦人の会県本部が9月県議会に提出した窓口無料化 を求める請願は、「継続審査」となりました。